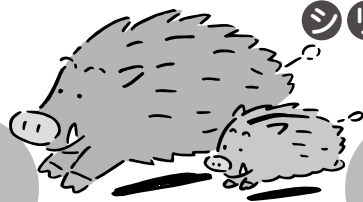


# 私にもできる 獣害対策

シリーズ



林業振興課 ☎0824-73-1124

イノシシを中心とした鳥獣による農作物の被害は年々増加しています。イノシシの捕獲頭数は増加しているにもかかわらず、被害が軽減されていません。一体なぜでしょうか。獣害対策のスペシャリスト井上雅央さんが、その原因と被害を防ぐための対策についてわかりやすく教えてくれるコーナーです。1年間シリーズ連載します。

## その1 原因と対策の基本

### ● 獣害・守れる集落の作り方

庄原の皆さんこんにちは。今回から、シリーズで田畑を荒らす厄介者、サル、

シカ、イノシシやカラスなど野生鳥獣による被害対策を一緒に勉強していきましょう。

鳥獣害で大変厄介な問題と感じている方も多いと思いますが、実は原因さえ分かれば案外簡単なんです。逆に原因を正しく理解しないでやる対策は全部逆効果と思ってください。

あなたが良かれと思って張ったトタン柵も、張り方や管理の方法によってはイノシシを田んぼに引き寄せ、被害をますます大きくしているといふことも多いのです。そんなことにならないように、さっそく被害激化の原因から勉強を始めましょう。

### 1. 被害激化の原因

被害激化の原因としてよく言われるのは、過疎・高齢化、スギ、ヒノキなど

の人工林の増加、地球の温暖化、狩猟者の高齢化と減少などです。でも、これら全部原因なんかではありません。



井上雅央さん

## 獣害対策は順序が大切

①みんなで勉強 ②守れる集落・守れる畑  
③自分でやる囲いや追い払い ④捕獲・大規模柵  
「何をやるか」よりこの順序が大事

みんな、③か④から始めて失敗するんですけどね、①、②、③、④の順番守ってやろうと思いつながら対策始めたらね、おもしろいことに、①だけで被害減り始めたり、①と②やったところでイノシシ、来る回数減ったり、③までで被害、どっかへ行ってしまふこと多いんですね。

ある集落での獣害激化の原因はズバリ、その集落で餌付けに成功しただけのこと。あなたの集落の田んぼが毎年イノシシにやられるというのは、あなたの集落がイノシシの餌付けに成功しただけのことなんです。だから対策は簡単そのもの。餌付けをやめたらいいだけです。

### 2. 餌付けとは何だ！

「被害で困っているのに、餌付けとは何だ！」と怒らないでください。

餌付けをやめるには、餌付けがどうやれば成功するのか、知っておかないとダメです。餌付けを成功させる条件はたった二つ。一つ

目が人慣れ学習。つまり、この集落は怖くないと動物に学習させること。二つ目の条件とは、出てきたら満腹できるだけのエサをいつも準備してあげる。もし、いくら対策をしても被害が続くなら、依然としてこの条件がそ

ろついていると言うしかありません。

### 3. 知らず知らずやっている餌付け学習

少し実例も挙げておきましょう。トタンは張ったけど外側はススキやササが生え放題。こんなトタン柵をよく見ます。トタンまで安心してイノシシが接近し、トタンの向こうにひそみ始めます。田んぼの至近距離でひそめば、トラクターや刈り払い機の機械音、話し声など平気な人慣れイノシシが育ちます。もし、稲刈り後、入り口を開けたりしていれば、トタン沿いに歩くと田んぼのレンゲやひこばえの米にありつきます。つまり、こんなトタン柵は餌付け学習装置と言うしかありません。

次回は守れる田畑の話です。

### ■プロフィール

井上雅央

独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構  
近畿中国四国農業研究センター  
鳥獣害研究チーム専門員

平成10年から奈良県農業技術センター鳥獣害対策チームリーダーとして、猿害対策を中心とした作物保護研究に従事。サルから守りやすい野菜・果樹栽培技術、高齢者が設置できる簡易猿害防止柵などを開発。これらを動機付け材料として行政と連携し、集落ぐるみの取り組みを实践。同チームの統括を経て平成18年に近畿中国四国農業研究センター鳥獣害研究チーム長。平成22年から現職。